



福島成蹊中高一貫

# 学校通信

平成31年4月11日  
平成31年度  
第1号

## 一貫11期生の入学を祝し (実り多い1年で在る為に)

校長 本田 哲朗

桜の花に祝福されて、福島成蹊中学校に入学した16名の11期生諸君、また、新たに高校生となった8期生諸君入学おめでとう。

中高生が集う学び舎を生かし『校訓』の体現者たる“魅力溢れる、問題解決能力を備えたヒト”となるべく、共に励んで参りましょう。その為には、先ず、先輩は後輩に対し思いやりの心を、後輩は先輩への尊敬の念を持って下さい。

さて、本年は本学園創立から106年を経、一貫教育も11年目を迎えました。間もなく“令和”に元号も改まる中、一世紀を超えて発展出来たのは『桃李の精神』を堅持しながらも、常に時代に合った努力を続けて来たからに他なりません。この事を表す格言の“不易流行(ふえきりゅうこう)”は、物事にはその本質として変えてはならないものがある一方、時代と共に変化しなければならない理(ことわり)のある事を教えています。ある意味、人の成長も同様です。もっと端的に言えば、成長とは“before&after”で、以前に比して何が出来る様になったかです。例えばスポーツの技術や芸術分野の表現力もそうですし、勉強では学力もこれに当たります。また、少し視点を変えて見ると、人の魅力である教養等も志向や経験にも因りますが、その人の生き方に結びついた“b&a”です。つまり“b&a”とは、自分の成長への意志であり、結局のところ人を決定付ける様に思います。

ここで一つ具体的な例を挙げます。諸君が中学校に入学した時に、私が必ず紹介する『作文』があります。それは平成を駆け抜けた天才とも言える、イチロー選手が小学校六年生の時に書いたモノです。彼は冒頭で“僕の夢は一流の野球選手になることです”と志を表し、文を続けています。そして選手生活にピリオドを打った今、イチロー選手が**超一流**の選手であった事は、世界中の誰もが認めているのです。さあ、**中・高・男・女の別なく協力して、互いが切磋琢磨する中、各自の志を成就出来る場**を築いて下さい。

主体である自分の歴史を創造すべく、力強く歩んで参りましょう。



『 天分、これを持たない者が居ようか。  
才能、単なる子供の玩具。  
努力こそが人を“ひと”とし、  
汗のみが天才を創る。 』

—ドイツの詩人・テオドール・フォンタンの言葉—